

チリ大地震による 津波避難アンケート概要

仙台市消防局防災安全課



1. 調査目的

- 2月28日に到来したチリ大地震津波の際の市民の行動や、津波に対する意識等を調査し、近い将来発生が確実視される宮城県沖地震に伴う津波等に対する、必要な対策を検討するための基礎資料とすることを目的とします。



2. 調査の概要

1) 対象者

市内の津波警戒区域等にお住まいの16歳以上の市民

2) 調査数等

男性2,500人、女性2,500人、計5,000人

(平成22年3月31日現在の住民基本台帳データから無作為抽出)

回収率 36.2%(1,808票)

3) 実施時期

平成22年5月

4) 調査内容

- ①2月28日当日の避難の状況について
- ②避難しなかった方の理由について
- ③避難した方の避難の状況について
- ④津波等に関する知識や意識について

5) 調査分析

東北大学大学院情報科学研究科

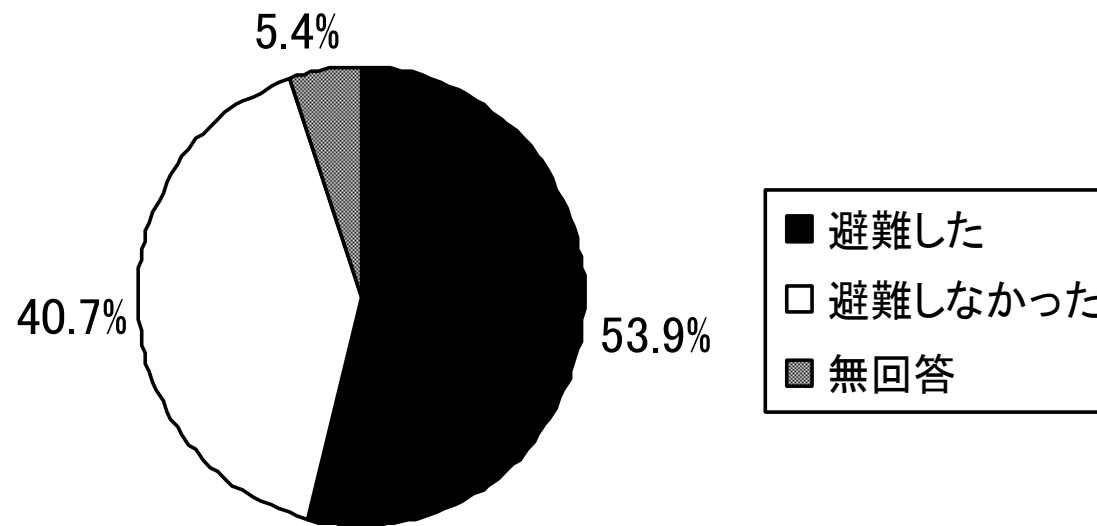
東北大学大学院工学研究科

3. アンケート集計結果概要

①2月28日当日の避難の状況について

問1 当日あなたは避難しましたか

避難行動の有無 (N=1808)

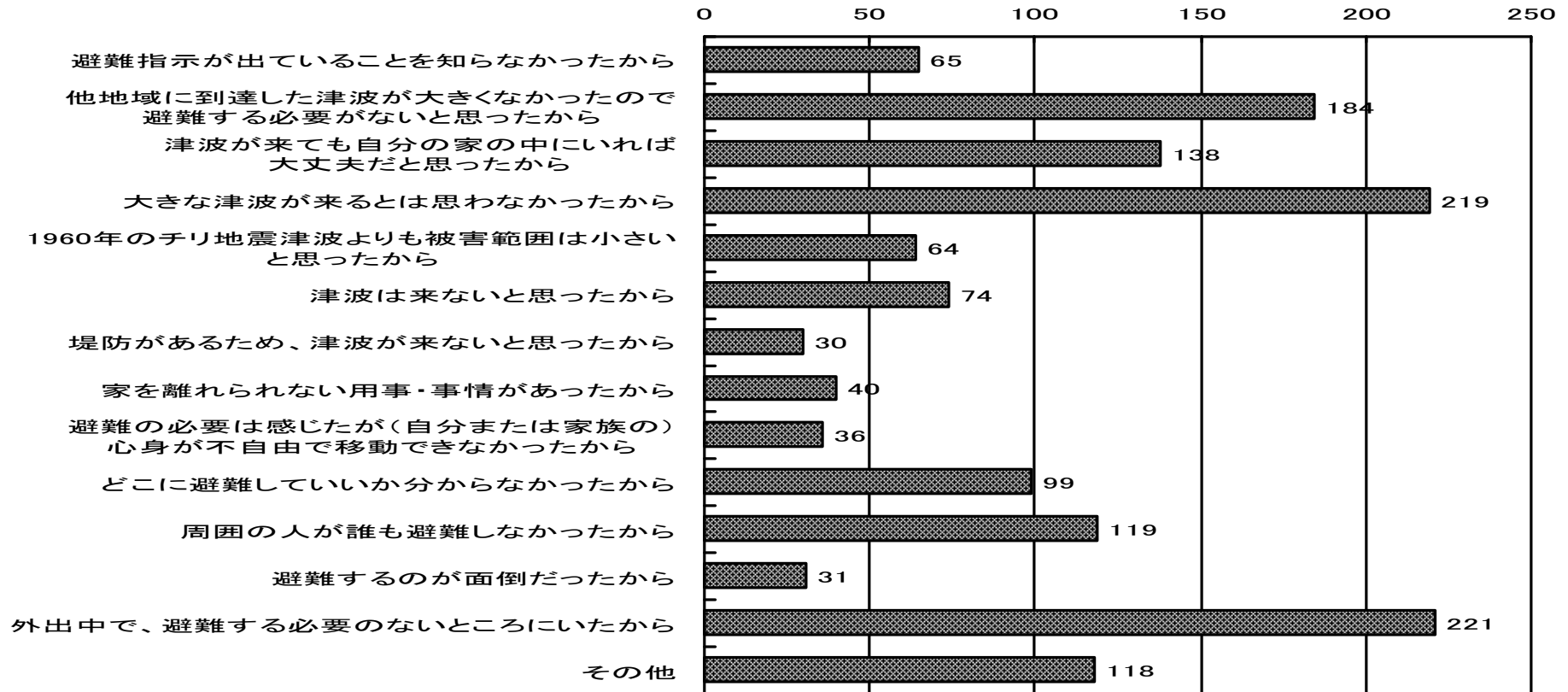


避難したと回答した人は、全体の5割強(53.9%)だった。

②避難しなかった方の理由について

問2 なぜ避難しなかったのですか(あてはまるものすべてに○)

避難しなかった理由 (N=737)

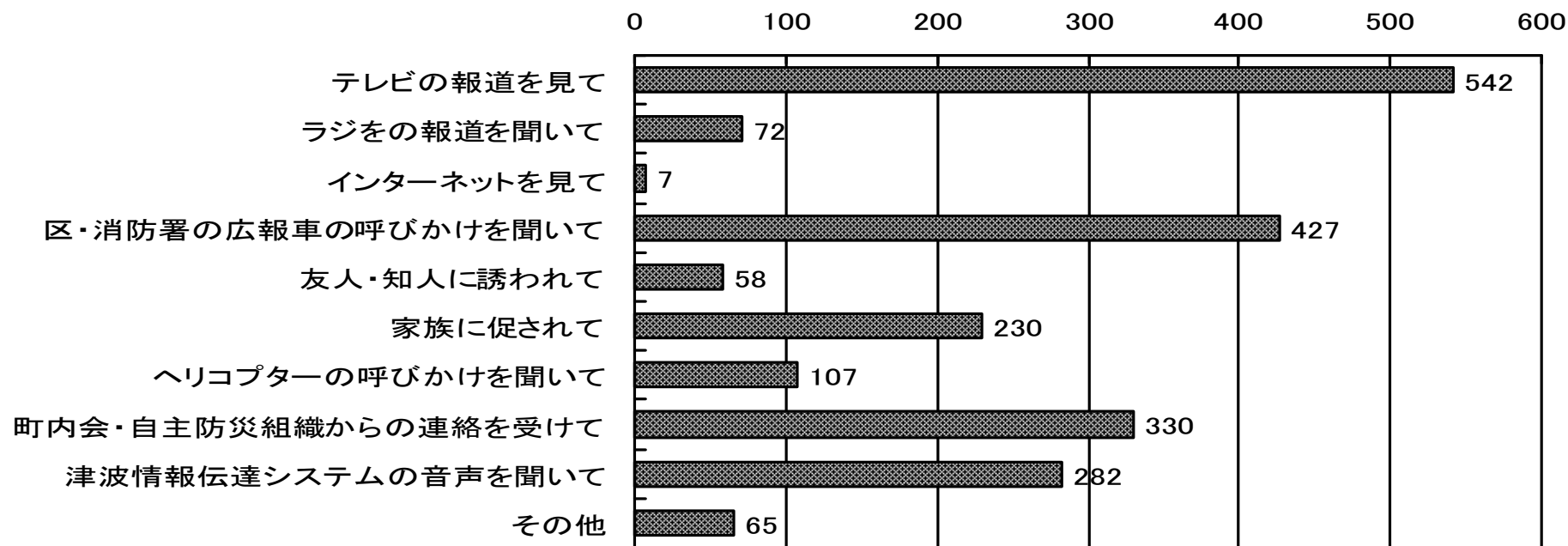


「外出中で避難する必要のないところにいた」と答えた人がもっとも多く(221人)、これとほぼ同数の理由が「大きな津波が来るとは思わなかった」(219人)であり、「他地域に到達した津波が大きくなかった」(184人)の順が続いている。

③避難した方の避難の状況について

問3 避難したきっかけは何でしたか(上位3つまで〇)

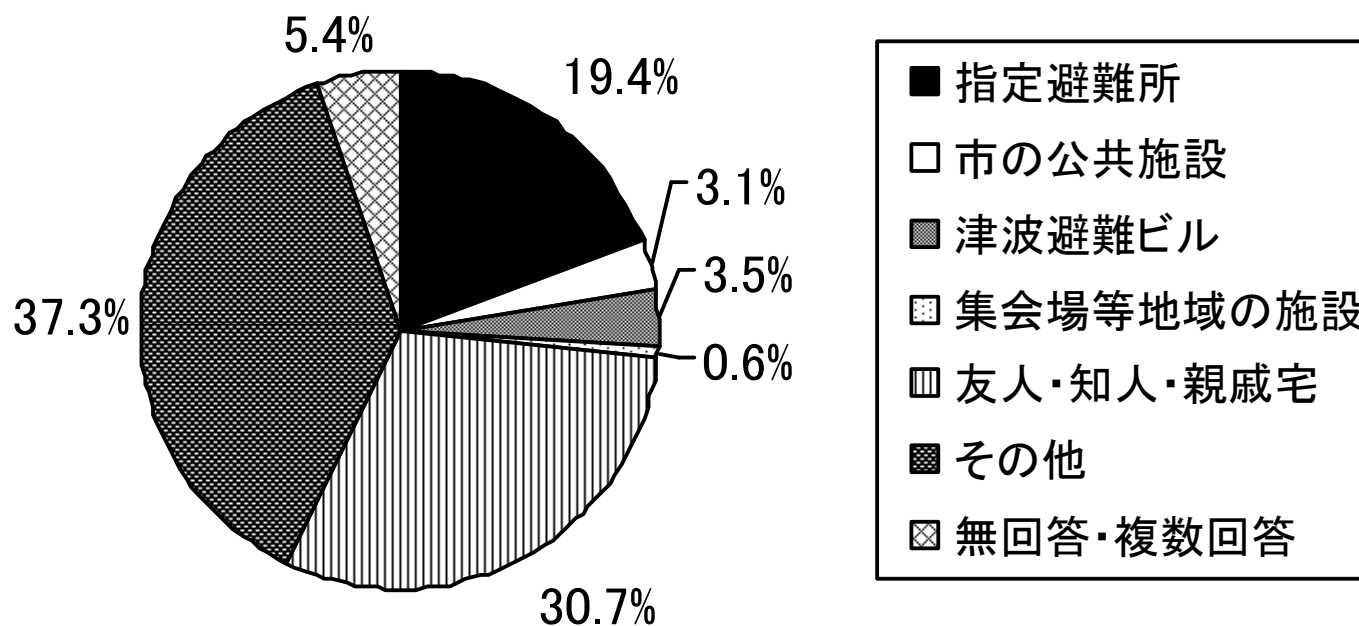
避難したきっかけ (N=974)



上位4つまでを見てみると、「テレビの報道を見て」が最も多く(542件、55.6%)、次いで「区・消防署の広報車の呼びかけを聞いて」(427件、43.8%)、「町内会・自主防災組織からの連絡を受けて」(330件、33.9%)、「津波情報伝達システムの音声を聞いて」(282件、29.0%)の順となった。

問4 どこへ避難しましたか

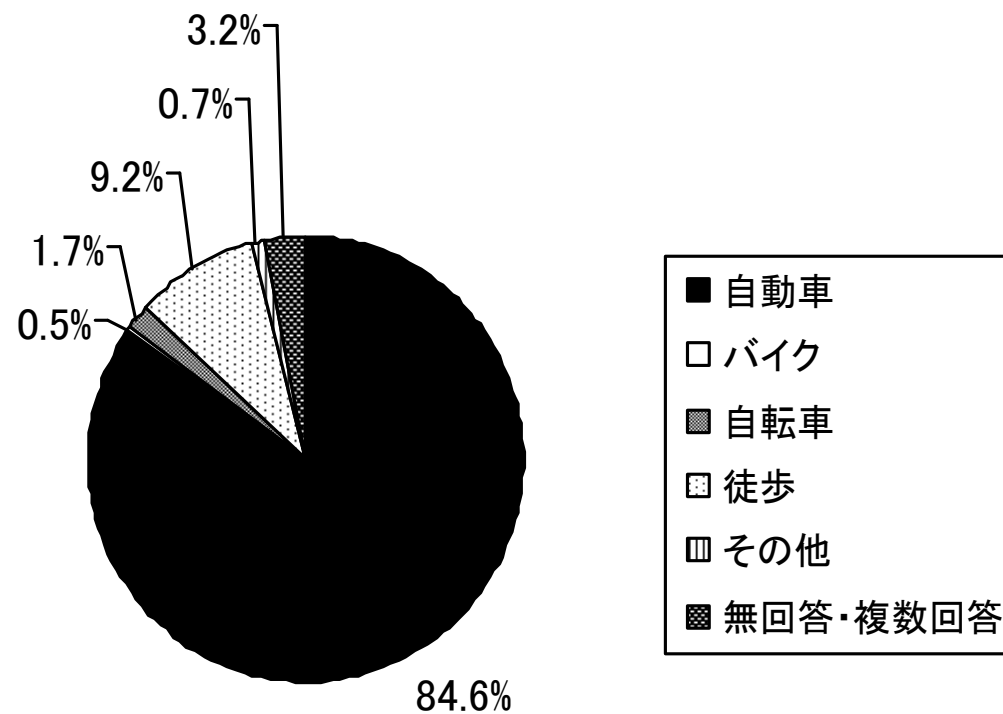
避難場所 (N=974)



上位3つまでを見てみると、「その他」(37.3%)、「友人・知人・親戚宅」(30.7%)、「指定避難所」(19.4%)であった。

問5 避難の際の移動手段はどれでしたか

移動手段 (N=974)

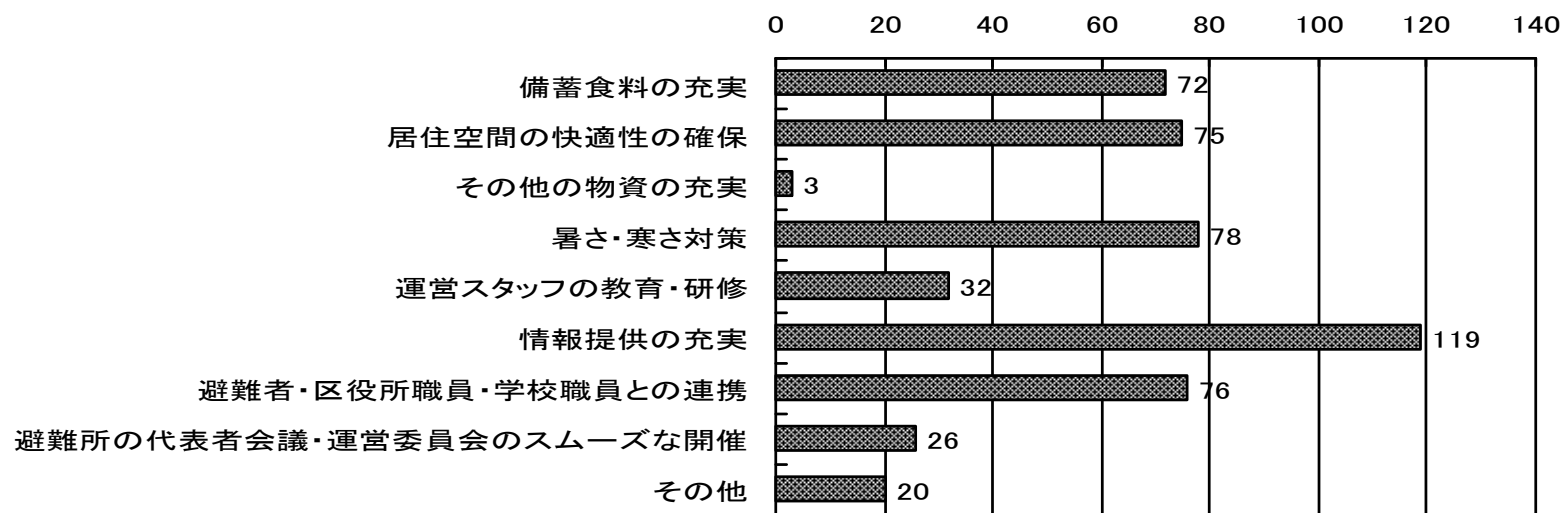


自動車で移動した人が圧倒的に多かった(84.6%)。

問6 避難所の運営で、改善したほうがよいと思ったものは何ですか(上位3つまで〇)

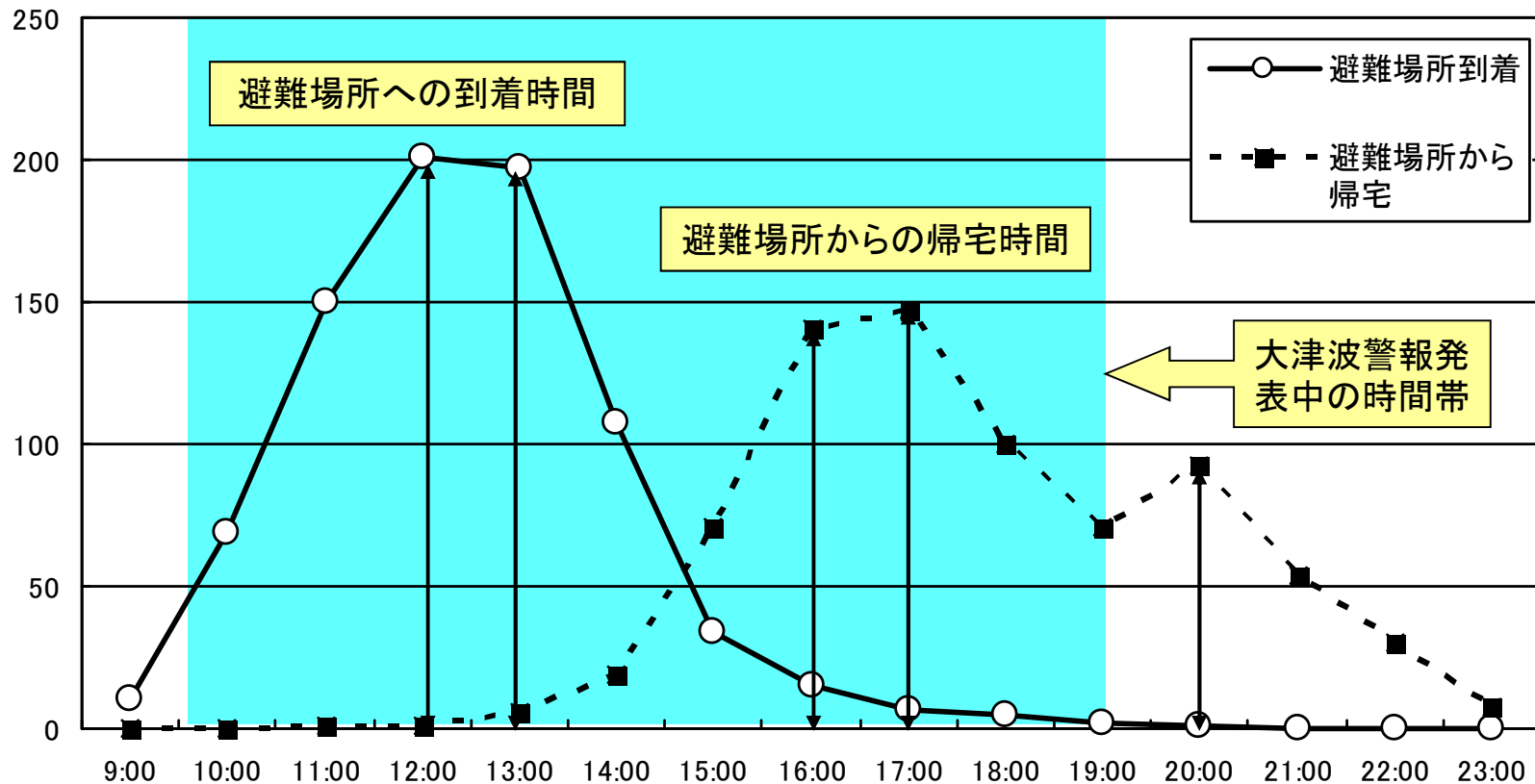
集計は、「指定避難所」「市の公共施設」「津波避難ビル」「集会場等地域の施設」へ避難したと回答した人のみを集計・分析の対象とした(対象者は272人)。

避難所運営の改善点 (N=272)



「情報提供の充実」がもっとも多かった(119人、43.8%)。それに次いで「暑さ・寒さ対策」(78人、28.7%)、「避難者・区役所職員・学校職員との連携」(76人、27.9%)、「居住空間の快適性の確保」(75人、27.6%)、「備蓄食料の充実」(72人、26.5%)がほぼ同数で並んでいる。

問7 避難場所への到着時間及び避難場所から帰宅した時間について

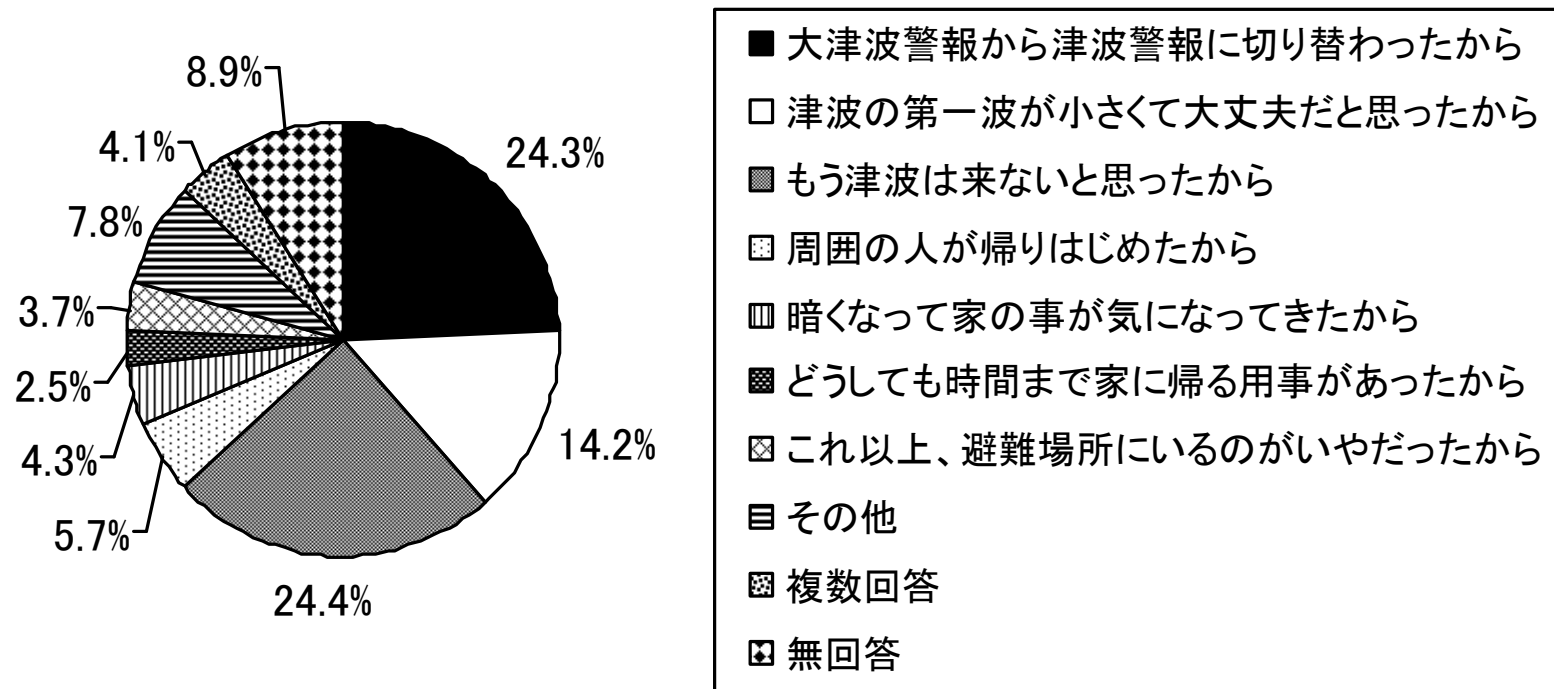


避難場所への到着時間は、11時半から13時半の時間帯が多かった。

帰宅のために避難場所を出た時刻は、15時半から17時半の間の時間がもっとも多く、次に19時半から20時半の時間帯だった。

問8 避難場所から帰宅したきっかけは何でしたか(1つに〇)

避難場所から帰宅したきっかけ (N=974)



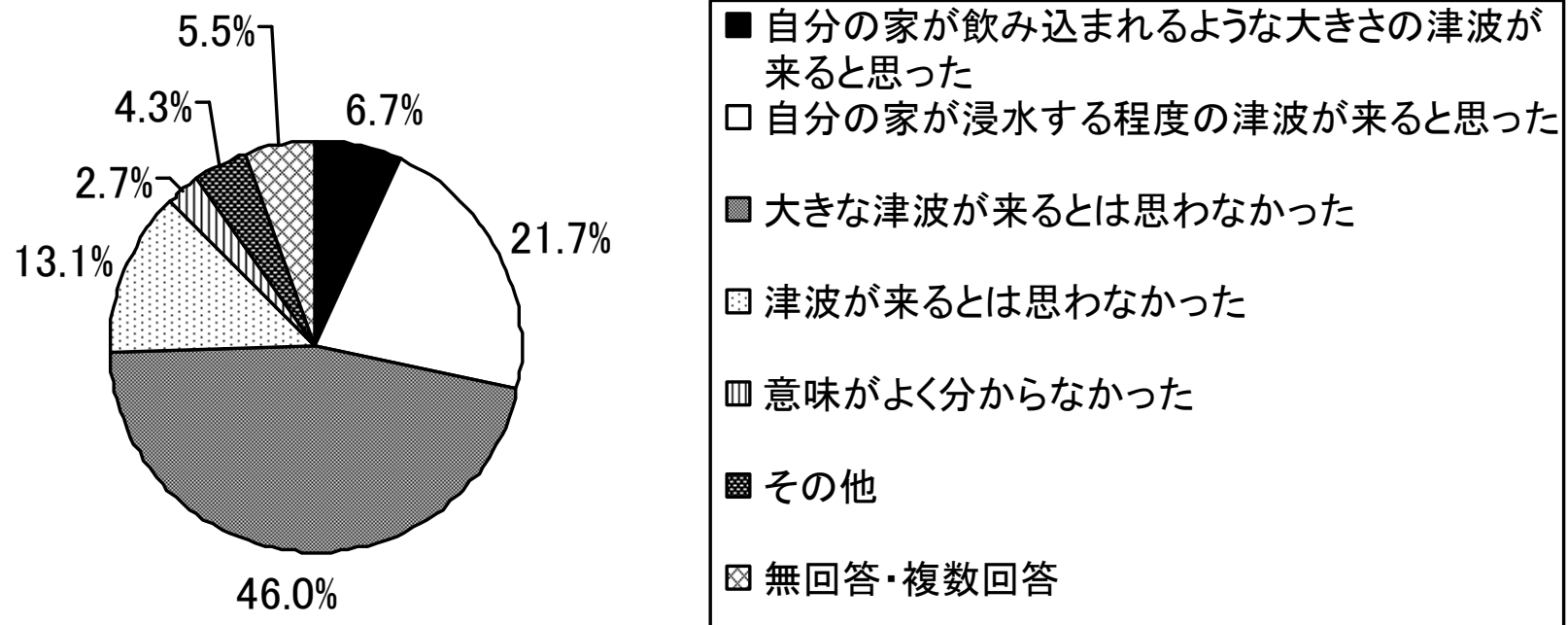
「大津波警報が津波警報に切り替わった」ことをきっかけとして帰宅した人(237人、24.3%)と「もう津波は来ないと思った」ことで帰宅した人(238人、24.4%)とがほぼ同数だった。

「第一波が小さくて大丈夫だと思った」人もそれらに次いで多かった(138人、14.2%)。

④津波等に関する知識や意識について

問9 今回の大津波警報を聞いて、どう思いましたか

今回の大津波警報を聞いて(N=1808)

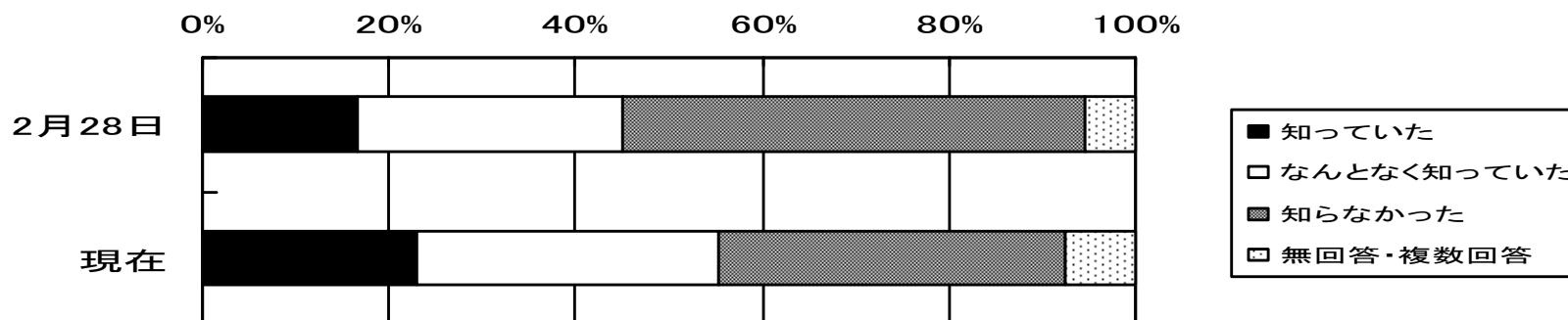


半数近く(46.0%)の人が「大きな津波が来るとは思わなかった」と回答した。

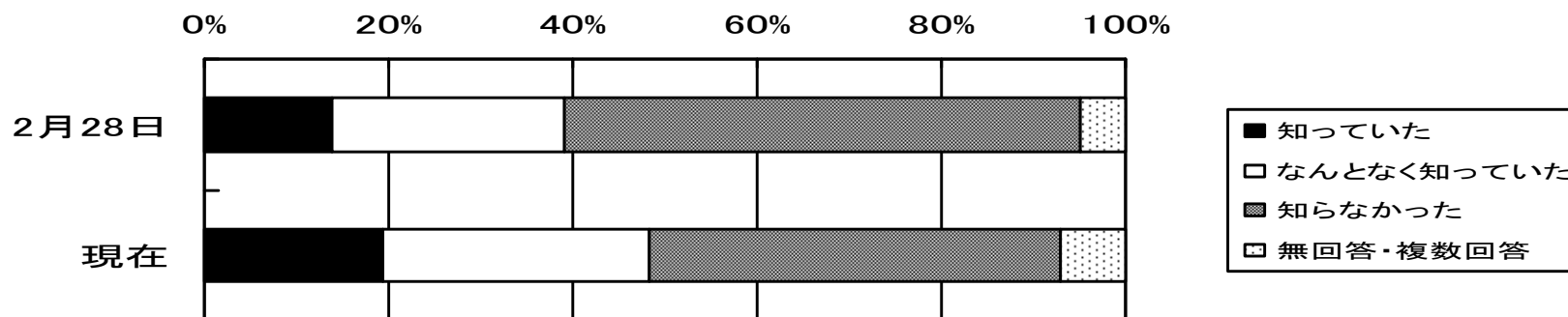
「津波が来るとは思わなかった」と回答した人(13.1%)を合わせると、約6割(59.1%)の人が大津波警報に対してそれほど危機感を感じていなかったようである。

問10 仙台市の「津波警戒区域」のエリアを知っていますか
 また、津波警戒区域内の、「津波危険区域」、「要避難区域」
 のエリアを知っていますか。

「津波警戒区域」のエリアについての知識 (N=1808)



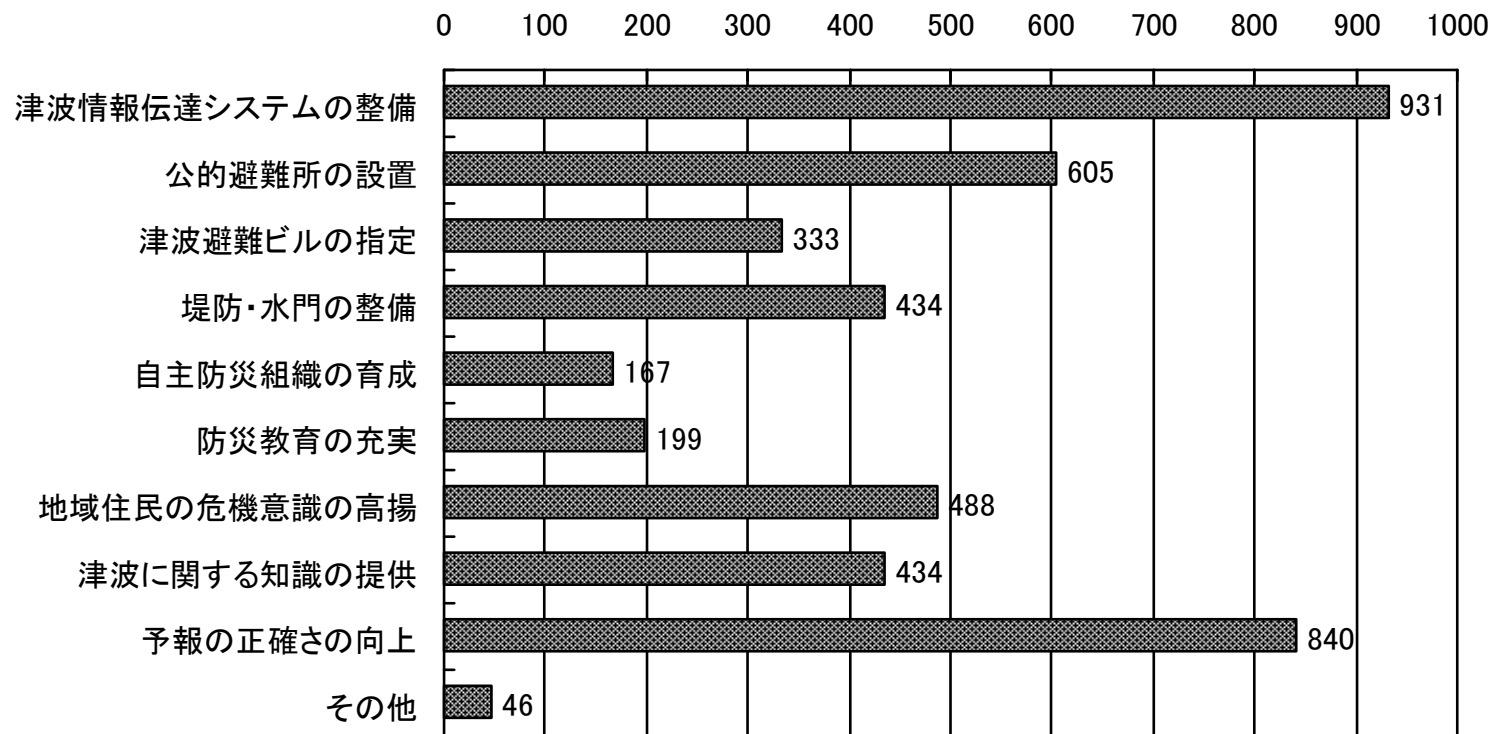
「津波危険区域・要避難区域」のエリアについての知識 (N=1808)



「津波警戒区域」、「津波危険区域」、「要避難区域」のエリアについて、津波の前後を比較して認識度は増加しているが、現在も「知らない」と答えた人が4割程度存在する。

問11 津波に対し早急に必要な対策は何だとお考えですか(上位3つまで)

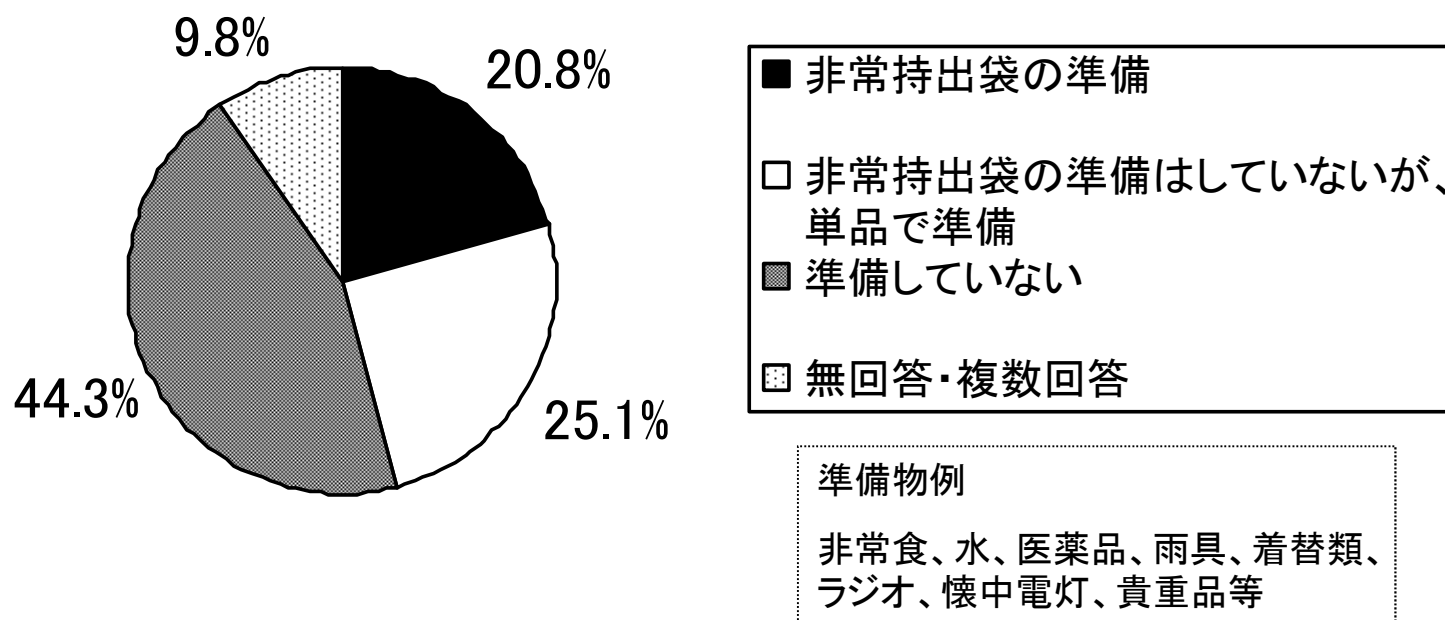
早急に必要な津波対策 (N=1808)



上位3つまでを見てみると、「津波情報伝達システムの整備」がもっとも多く(931人、51.5%)、次いで「予報の正確さの向上」(840人、46.5%)、「公的避難所の設置」(605人、33.5%)の順となった。

問12 家庭で非常持出品の備えをしていますか

非常持出品の備え (N=1808)

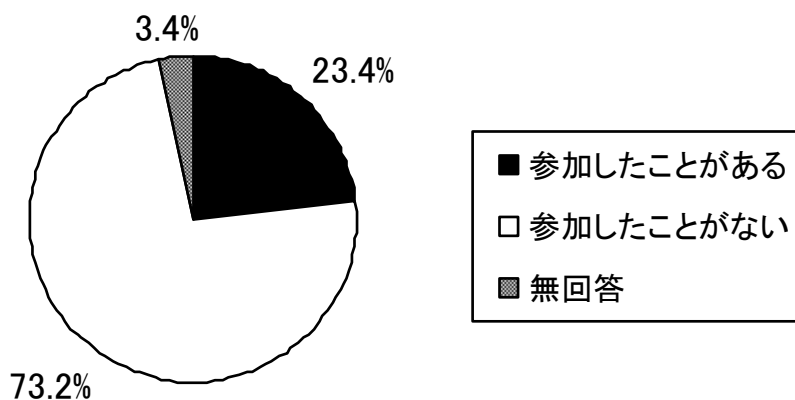


「準備をしていない」が4割強(44.3%)で高い割合を占めた。

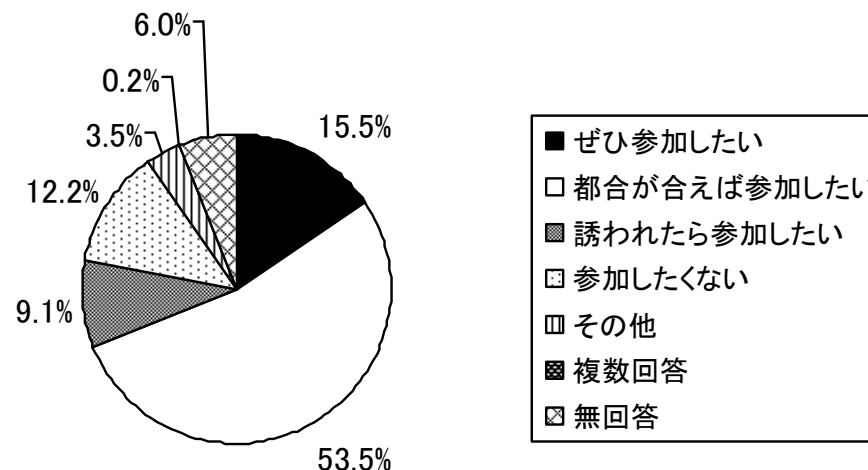
「非常持出袋の準備をしている」(20.8%)、「単品で準備をしている」(25.1%)で、何らかの準備をしている割合も4割強だった(45.9%)。

問13 今までに、津波の防災訓練に参加したことがありますか これから、津波の防災訓練に参加したいですか

津波防災訓練への参加 (N=1808)



津波防災訓練への参加意思 (N=1808)



今までに、津波の防災訓練へ「参加したことがない」と答えたのは7割強(73.2%)で、「参加したことがある」と答えたのは、2割強(23.4%)であった。

これから、「都合が合えば参加したい」と答えた人が5割強(53.5%)、「ぜひ参加したい」「誘われたら参加したい」を合わせると8割近く(78.1%)の人が参加の意思を示している。